

## 「宮古アイランドロックフェスティバル 2007」の経済効果

- 経済効果は 3 億 900 万円 -

### 【 要 旨 】

宮古島を島内外に広くアピールし、観光客の増加や将来を担う宮古島の子供たちに夢と希望を与えることを目的とした「宮古アイランドロックフェスティバル 2007」が 6 月 23 日（土）に開催された。

同フェスティバルは、宮古島在住の若手の経営者や自営業者が中心となり、地域の活性化をしていこうと企画、開催したもので、国内音楽 CD セールストップクラスのアーティストを含めた計 10 組の出演があった。

観客動員数は約 5,500 名となり、うち島内客約 3,200 名、県内客約 700 名、県外客約 1,600 名であった。

波及効果を含めた経済効果について、県の産業連関表により試算した結果、経済効果は 3 億 900 万円となった。また、直接支出額 1 億 9,700 万円に対して約 1.6 倍の波及効果となっている。

経済効果 3 億 900 万円を産業別にみると、運輸業 5,700 万円、宿泊業 5,000 万円、鉱業・製造業 3,500 万円などとなっている。

同フェスティバルは、今年で 3 回目の開催となるものの、運営には離島地区ゆえに多くの経費がかかっており、今後、このフェスティバルを継続し、発展させていくには、行政や地元の多くの人々の更なる理解と協力が必要になってくる。

県内では、このような音楽イベントが多く開催されており、県内だけでなく県外からも多くの観客を動員していることから、官民挙げての音楽を通じた新たな観光商品開発に取り組み、音楽イベントと併せた新たな沖縄の魅力づくりをすることが求められる。

## 1.はじめに

美ぎ島（かぎすま）<sup>1</sup>宮古島を島内外に広くアピールし、観光客の増加や将来を担う宮古島の子供たちに夢と希望を与えることを目的とした「宮古アイランドロックフェスティバル 2007」が、去る 6 月 23 日（土）に開催された。

今年で 3 回目となる同フェスティバルは、宮古島在住の若手の経営者や自営業者が中心となり、地域の活性化をしようと企画、開催したもので、国内音楽 CD セールストップクラスのアーティストなど計 10 組の出演があり、約 5,500 名の観客があった。特に島外から約 2,300 名の観客があり、

これらの観客による宿泊や飲食、土産品購入などの支出を通しての経済効果は大きいものがあった。

当社では、このように地域を活性化していこうとする地元の若者たちの熱心な取り組みを応援し、今後の地域活性化に役立てればと企画し、同フェスティバルの経済効果について試算した。



（画像提供）宮古アイランドロックフェスティバル 2007 実行委員会

## 2. 「宮古アイランドロックフェスティバル 2007」の概要

今年で 3 回目となる同フェスティバルは、宮古島市のコースタルリゾートヒララ・トゥリバー地区にて 6 月 23 日（土）に開催された。出演者は、ORANGE RANGE（オレンジレンジ）<sup>2</sup>、ケツメイシ<sup>3</sup> といった国内音楽 CD セールストップクラスのアーティストなど計 10 組であった。観客動員数は約 5,500 名となり、内訳は島内約 3,200 名、県内約 700 名、県外約 1,600 名であった。

県内外から多くの観客が訪れたため、フェスティバル当日の島内の宿泊施設はほぼ満室の状態となった。また、前夜祭も行われ、商店街での出店やライブなどが同フェスティバルを盛り上げた（図表 1）。

<sup>1</sup> 宮古島の方言で美しい島の意味。

<sup>2</sup> 沖縄市出身の 5 人組のグループ。2005 年度の国内音楽 CD セールスはトップとなる。

<sup>3</sup> 男性 4 人組のグループ。05 年に発売されたシングル CD「さくら」がオリコンヒットチャート 1 位に輝いたほか、アルバム CD「ケツノボリス 4」は売上 200 万枚を突破。

(図表1)宮古アイランドロックフェスティバル2007の概要

名称	MIYAKO ISLAND ROCK FESTIVAL 2007
開催日	2007年6月23日(土) 14:00～21:00
場所	宮古島市 宮古島コースタルリゾート・トリパー地区 屋外特設会場
出演バンド	ELLEGARDEN、ORANGE RANGE、かりゆし58、ケツメイシ、ザ・クロマニヨンズ 下地勇、Bleach、FUNKY MONKEY BABYS、マキシマム ザ ホルモン、 LONG TALL TEXANS(From UK) 五十音順
観客	約5,500名(県外客 約1,600名 宮古島以外の県内客 約700名)

(出所)宮古アイランドロックフェスティバル2007実行委員会

### 3. 「宮古アイランドロックフェスティバル 2007」経済効果の試算

#### (1) 直接支出額の試算

経済効果の試算にあたって、まず、県内及び県外からの観客による宿泊、飲食、交通費、娯楽レジャー、土産品購入等の支出や島内の観客がフェスティバル会場での飲食、グッズの購入などの直接支出額を推計する。また、その他に会場設営のための費用や看板設置、ポスター等の印刷費などの直接支出があり、これらの直接支出額を合計すると1億9,700万円となる。

#### (2) 経済効果の試算

ここで、(1)で得られた直接支出額を21の産業別需要項目に区分し、産業連関表を用いて県内各産業への波及効果も含めた経済効果を算出した。

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額に県内での自給率を掛けて算出した額が1億8,100万円となり、これが直接効果となる。

次に直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、会場設営費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業への売上増加へと波及していく。これを1次間接波及効果といい、これが7,800万円となる。

さらに直接効果、1次間接波及効果のように各産業へ波及した効果は雇用者の所得へと結びつき、これらの雇用者の所得が消費へと繋がり、消費を通して各産業の生産を増加させていく。これを2次間接波及効果といい、これが5,000万円となる。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果であるそれぞれの生産誘発額を合計したものが、3億900万円となり、これが宮古アイランドロックフェスティバル 2007の経済効果となる。また、これらの効果のうち、原材料やサービス等の仕入れを除いた分が粗付加価値(1億7,100万円)となり、この中で雇用者へ支払った賃金等が雇用者所得(8,600万円)となる(図表2)。

(図表2) 産業連関分析による経済効果の試算結果

	生産誘発額 (百万円)	粗付加価値 誘発額 (百万円)	雇用者所得誘 発額 (百万円)
直接効果	181	92	53
1次間接波及効果	78	47	20
2次間接波及効果	50	32	13
総合効果	309	171	86
直接支出額 (波及効果)	197 (1.6倍) = 総合効果/直接支出額		

- (注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。  
 2. 1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。  
 3. 2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。  
 4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。  
 5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得と営業余剰)。

### (3) 産業別の波及効果

今回の経済効果である生産誘発額3億900万円を産業別にみると、運輸業の5,700万円(主に飛行機、タクシーによる移動等)が最も大きく、次いで宿泊業の5,000万円、鉱業・製造業の3,500万円(主に土産品を中心とした製造業)などの順となっている(図表3)。

(図表3) 産業連関分析による産業別経済効果の試算結果

産業区分	生産誘発額 (百万円)	粗付加価値 誘発額 (百万円)	雇用者所得誘 発額 (百万円)
運輸業	57	27	19
宿泊業	50	26	14
鉱業・製造業	35	13	5
飲食店	28	13	8
商業	20	14	10
建設業	13	7	5
電力・ガス・水道	10	5	2
公務・その他の産業	96	64	23
合計	309	169	85

- (注) 1. 「商業」は売上高ではなく、商業マージン部分が計上される。  
 2. 「運輸業」は取扱高ではなく、運輸マージン部分が計上される。

### 4. おわりに

今年で3回目の開催となった同フェスティバルは、島外から約2,300名の観客が訪れ、大きな経済効果をもたらし、全国でも音楽CDセールストップクラスのアーティストが出

演するなど島内の子供たちや学生にも大きな夢を与えた。また、同フェスティバルは、全国で発売されている音楽情報誌などにも掲載され宮古島のPRにも繋がった。ただ、一方で同フェスティバルの運営には離島地区ゆえに多くの経費がかかっており、



Photo by G-KEN・t.nohara

今後、このフェスティバルを継続し、発展さ

(画像提供) 宮古アイランドロックフェスティバル 2007 実行委員会

せていくには、行政や地元の多くの人々の更なる理解と協力が必要となってくる。

一方、同フェスティバルを含め県内では、6月24日に「うたの日カーニバル 2007」や7月7、8日には今年で25回目となる「ピースフル・ラブ・ロックフェスティバル」が開催され、県内だけでなく県外からも多くの観客を動員した。また、沖縄市には、「ミュージック音市場」が開設されるなど音楽を通じた地域の活性化や観光振興に結びつけていく取組みも始まっている。

このように音楽イベントは多くの観光客を集客できることから、今後、官民挙げて音楽を通じた新たな観光商品開発に取り組み、音楽イベントと併せた新たな沖縄の魅力づくりをすることが求められる。

(以上)

## 【補注】：本調査でを使用した産業連関表について

今回の調査では、県が作成した 2000 年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類 75 部門表をベースにしたが、75 部門表では「宿泊業」や「飲食店」、「航空輸送」、「陸運」、「海運」、「貸自動車業」等の部門が明示されていないので、これらの産業部門については、基本表（514 行×402 列）から該当する業種を抽出、統合して産業連関表の中に明示した。分析に際しては、今回の分析において多少統合しても不都合がない部門を当社で統合し、41 部門表に組み替えて使用した。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要（＝県内居住者の需要）に対する自給率であるため、移輸出（＝非居住者の需要）は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出（＝非居住者の需要）」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要（県外旅行等を含む）のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きい場合、県内宿泊業の自給率は極めて低くなる。しかし、関連支出額の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに 100%とみられる宿泊業、飲食店、などについては自給率を 100%に設定し直して使用した。

なお、宿泊業は産業連関表の部門表では「旅館・その他の宿泊所」となっているが、ここでは「宿泊業」の呼称を用いる。また、産業連関表における商業部門は売上高ではなく商業マージン部分が計上され、運輸業も取扱高ではなく運輸マージン部分が計上されることに留意する必要がある。

生産誘発額を求める式は以下のとおりである。

$$X = [I - (I - M)A]^{-1} (I - M)F$$

X：各産業部門の財・サービスの生産額

I：単位行列

M：県内需要に対する移輸入係数（対角行列）

A：投入係数（行列）

[ ]<sup>-1</sup>：逆行列

F：最終需要額（直接支出額）

X（生産額）が、F（最終需要額）に対応する生産誘発額となる